

## ①題：「彼らはクリスチャンと呼ばれた」(34分)

220730

説教者 : 花田憲彦

聖書朗読 : 使徒行伝 11章 22～26節

瞑想の言葉 : E・G・ホワイト『患難から栄光へ』第16章

「弟子たちがはじめてクリスチャンと呼ばれたのは、アンテオケにおいてであった。彼らの説教や教えや話題の中心がキリストであったので、この名がつけられたのである。……ゲッセマネの園でのキリストの苦悩や、裏切り、裁判や処刑、敵たちから負わされた侮辱や責め苦に耐えられたキリストの忍耐と謙遜、また、彼を迫害した人々のために祈られた神々しいまでの憐れみについて、弟子たちは唇をふるわせ、目にいっぱい涙をためて語った。」

始めの讃美歌 : 希望の讃美歌 237番

終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 208番

## ②題：「聖霊：目的地か、道のりか」(25分)

230429

説教者 : 長谷川徹

聖書朗読 : ローマの信徒への手紙 8章 12～17節

瞑想の言葉 : E・G・ホワイト『レビュー・アンド・ヘラルド』1891年7月21日

「(福音の働きとは) 信仰者の心を一つの兄弟愛の精神で結びつけ、天の秩序と調和を地上の神の家族のうちに造り上げることです。そのようにして、彼らは天の家族としてふさわしいものとみなされるようになるのです。」

始めの讃美歌 : 希望の讃美歌 422番

終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 361番 2節

## ③題：「まことに主、我らと共に」(23分)

240203

説教者 : 高崎憲文

聖書朗読 : ヨハネによる福音書 21章 1～7節

瞑想の言葉 : E・G・ホワイト『各時代の希望』下巻 第85章

「一晩中働いたが効果はなかった。退屈な時間の間じゅう、彼らはそこにおられない主のことを語り合い、海辺でのイエスの伝道で目に見たふしぎなできごとを思い起こした。彼らは自分たちの将来についてたずね合い、前途を悲観する気持ちが高まった。その間じゅうずっと、イエスは、ただ1人岸辺で彼らのあとを目でおっておられたが、その姿は彼らの目に見えなかった。ついに夜が明けた。」

始めの讃美歌 : 希望の讃美歌 313番

終わりの讃美歌 : 希望の讃美歌 360節

### ◆お知らせ

アドベンチストメディアセンターホームページ (<http://www.adventistmedia.jp/video/worship/>)  
に礼拝プログラムのファイルを公開しております。週報の作成などご利用ください。